

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光(株)		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Bユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成25年11月19日	評価結果市町村受理日	平成26年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●ドアを開けるとすぐに広い苑庭が広がっており、訪問者の目を引きまします。気候の良い時は、散歩や行事など雨の心配をせず、自由に行うことが出来ます。
 ●朝や出勤時は、利用者様お一人おひとりに、また、スタッフ同士笑顔で元気に挨拶することで、気持ちの良い一日がスタートします。利用者様に安心して、心穏やかに、楽しみのある暮らしをして頂く為に、家族や地域の方々の協力を得ながら、スタッフ全員で精一杯のサービスを実践したいと考えています。それは敬愛苑の基本理念である「人と人、心の和を大切に」の一歩と考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Aユニットに記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はよく見えるところに掲示して、確認実践できるようにしている。また、新人職員には、入社時研修で説明をして意識を促し、実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に誘って頂いたり、近くのお店まで利用者の買い物と一緒に掛かけたりしている。商店会にも加入していて、空スペースは発表会や研修会等に利用して頂き、利用者も可能な限り参加させてもらって交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ビルの4階に位置しているが、近隣の町内会や研修等に空スペースを開放している。災害時には一時避難所にもなっていて、有効利用してもらっている。また商工会議所主催の「まちゼミ」(年2回)にも参加している。介護でお困りの方、健康体操、車椅子の使い方など、希望される方に受講して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時にはサービス状況や事故の内容、その後の取り組み等を説明したり、行事等も報告している。参加者からの質疑、意見、要望等、意見交換しながら理解して頂けるよう取り組んでいる。家族の参加が少ないので、引き続き対応を考えていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、連絡は必要以外取っていない。相談や報告をしたり、市や社協から依頼された内容についても出来る限り協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員も外部の研修に参加したり、苑内での研修を実施して、常にケアのあり方について検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言、暴力だけでなく、返事をしない、無視などの心理的虐待なども重視していて、相手の立場にたって考えることも常に指導している。また職員同士、お互いに注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は権利擁護事業の利用者がおられ、その都度勉強の機会を持つことが出来たが、現在はそれはない。身近な研修などには参加して、機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は退居を含めた説明を行い、理解、納得してもらった上で手続きをしている。利用者自身にも可能な限り説明して、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、普段から出来るだけ意見や言葉を出して頂けるようなケアの取り組みを行っている。家族にも来苑時に利用者の状況説明をしたり、気軽に意見や思いを伝えて頂きやすい関係作りに努めていて、ユニット会議等で反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は日頃から職員と話しやすい関係作りに努力していて、会議や面談等で職員が意見を言いやすい雰囲気作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り現場に入り、職員個々の努力や勤務状況を把握するようにしている。休憩は場所や時間に配慮し、リラックスできる体制をとっている。また勤務管理をきちんとし、休日の確保や過重労働にならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数を踏まえた外部研修の機会や社内研修を計画し、技術やチームワークケアの向上に努力している。また資格取得のための勤務体制、休日確保なども協力し、その際には、事業所から助成金なども出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修等の活動には、管理者も職員も積極的に参加している。他グループホームからの見学や研修生も受け入れていて、機会がある時はこちらからも見学や研修に出掛けて交流し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始までに、管理者と現場スタッフの2名で面接をし、本人の思いや気持ちを聞き、少しでも不安な気持ちがなくなり、施設入所が受け入れやすい関係作りがとれるよう職員全体で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの家族の苦労や困りごとを傾聴し共感をする。今までの苦労をねぎらい、今後も家族の協力は必要だが、相談しながら施設で出来る限りの支援をしていくことで安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の実情により、最も適した支援(サービス)は何かを見極め、場合によっては他事業所の説明や紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかな生活が出来るように場面作りをしている。本人が出来ることを継続し、役割を持つことで、利用者の自信と信頼関係を保つことが出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や毎月のお便りで日々の様子を写真と一緒に報告している。面会時に家族と話しをし、得た情報や家族の思いについて、家族ファイルを利用し、スタッフへの共通理解に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会時には、居室でゆっくりとお話をして頂いている。家族の協力により、以前より通っていた教会の牧師さんの来苑を月1度継続している。年に1度は、苑にて教会への外出支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が居室の訪問をしたり、お互いに気にかけて合いながら、励まし、気の合うもの同士で過ごしておられる。利用者同士がトラブルにならないよう、スタッフがフォローしたり、距離をおいたりすることで関係性を保てるようにしている。リビングの座席にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入院となったり、他施設へ入居されたりした場合は見舞いや面会に行っている。その際、施設のスタッフや利用者で作る写真付きの色紙を渡し、利用者への思いを書いている。また、相手から相談等求められれば応じる態勢はある。退居後死亡となった場合は、事情が許す限り葬儀等に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常会話や行動に注意して、利用者の希望や考えを把握するようにし、意思疎通が困難な場合は、常に声がけをし、表情や行動をよく観察し、家族に本人の思い等を確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント時に、自宅または入所施設に出向き、そこでの様子を見ながら、本人、家族、ケアマネから日々の様子などの情報を得ることで援助方針を決めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフの記録や申し送りなど、日々の利用者の生活リズムを把握し、声かけや誘導により本人の生活ペースが崩れないよう、スタッフ同士で情報を共有するようにしている。心身状態が落ち着かず、不安やイライラする気持ちが強いときには、本人の思いを聞き、寄り添うことで心穏やかに過ごしてもらうように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議やミーティングだけでなく、家族に日頃の様子をお知らせし、家族の思いや要望を聞いたり、医師や看護師と情報を共有し、様々な角度からの介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の変化や様子を記録するだけでなく、記録内容をスタッフ同士で共有し、疑問に思ったことや利用者の状態に変化があった場合は、すぐにスタッフ間で話し合い対応するようにしている。また、決定事項等職員間での共有する場として連絡ノートを活用し、振り返り、いつでも見られるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望や思い出話をヒントにレクや行事を計画したり、家族の訪問時に昔の様子を聞き行事に取り入れられたりし、本人の希望に添えるようにしている。また、施設のデイサービスに参加して頂いたり、外部からのボランティアの受け入れも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市職員、民生委員、家族、町内会長等に参加して頂き、情報交換や意見を頂いている。ボランティアの訪問や中学生の受け入れを積極的に行い、暮らしの変化をしている。地域行事が盛んなため、民生委員から情報を得て、力祭りや天神祭りなど地域行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も今までのかかりつけ病院の受診及び往診をして頂いている。普段の様子や変化を必要に応じて主治医に報告し、対応を頂いている。病院受診が本人の状態のレベル低下により困難となった場合は、家族との話し合いのもと、苑のかかりつけ医に移行される方もおられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	苑内に看護師が配置しているため、日常生活の様子や変化を伝え、利用者の健康に気を付け、早期発見に取り組んでいる。体調の変化があれば、昼夜を問わず看護師に連絡し、指示を受け、対応するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する支援方法、情報を医療機関に提供している。また、回復状況等を家族と情報交換し、退院支援を行っている。その際は、管理者と現場スタッフ2名で出向き、社会福祉士、家族と共に支援の方向性を検討し、円滑に退院後のケアが行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に苑での医療行為や終末期(看取り)は行っていないことを説明している。重度化に関しては、家族との話し合いのもと特養の入所申し込みを勧めながら、利用者、家族が安心して納得されるよう、主治医と共に十分に話し合いをした上で支援できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の具体的方法のマニュアルを作成している。苑内にAEDを設置し、急変時の対応に備えて消防署からの指導も受けている。消防署で行われている応急手当の講習会へ参加したり、苑内での講習会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を行ったり、セコムがビル内を管理しているため、セコムからの社内研修(消火器の使い方、避難経路等)も定期的に行っている。原子力火災のマニュアルも作成している。災害時の第1次避難場所に指定されている。水の確保もしており、災害に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重することは基本である。それぞれの実情に合った声かけと対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望に添えるように対応している。見守り、危険回避を優先し、要望に応じられないこともあるが、スタッフの方から誘いかけることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活は決まっているが、個人の体調、希望に配慮し、時間調整することもある。行動的な人には、態勢をみて気分転換を図ることも勧めている。日々の状態を把握した上で、本人の表情や様子を見ながら、一人ひとりに合った過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決めることができる人には決めてもらっている。スタッフで選ぶ際には、季節感、清潔、保温、肌の保護等に留意しているが、利用者の実情に合わせて機能を優先して選ぶこともある。美容師、理容師がスタッフにいたため、散髪、ひげそりが随時苑にて行える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	膳拭きや食事の準備の手伝いをしてもらっている。午後のお菓子を利用者と一緒に手作りすることもある。また、季節の食べ物(笹巻き、花餅作り)などを行事に取り入れ、利用者全員で楽しみながら作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量をチェック表を活用し、スタッフ全員が把握している。水分摂取が難しい方には、夜間水分補給や個々にゼリーやジュース、番茶ゼリーなどを勧め、脱水にならないよう、スタッフも1日の水分量を気にかけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台や自席にて、それぞれに応じた声かけと対応をしている。週2回の義歯の洗浄も行っている。歯のない方も、うがいをしてもらったり、専用の歯ブラシを使用したり、個々に合ったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々に合わせた定時、随時トイレ誘導を行っている。トイレに座って頂くよう促し、過敏づけることによってトイレで排泄が出来るようにしている。時間帯によって、本人に合ったパットを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談の上、下剤等調整しながら、日常的には食事の工夫や水分量、牛乳の摂取等を行っている。数日間排便が見られない方は、下剤、座薬、浣腸を使用している。その際は、利用者の排便リズムを掴み声をかけをし、トイレにて腹部マッサージをしたり、運動をして、トイレにて排便が出来るように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に一度は入浴してもらうように心掛けている。入浴拒否のある方には言葉かけ、タイミングに留意している。浴室、脱衣場の暖房を活用し、不快な思いをさせないよう配慮している。一般浴槽のため、介助が必要になると浴槽内入浴することは難しいため、シャワーチェアを使用し、シャワー浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしてもらい、夜は安眠できるという生活リズムを整えている。夜寝る前のひと時が穏やかに過ごせるよう、利用者同士やスタッフとの会話を大切にしている。夜間の睡眠状況によっては、食事を遅らせたり、休んでもらう時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルを作成し、職員全員が服薬状況を把握するようにしている。体調変化がみられる際には、看護師を中心に主治医との連携を図っている。誤薬防止のため、服薬の仕方のマニュアルがあり、スタッフ2名で確認後、服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮して頂けるような手伝い(洗濯物たたみ、干し、膳拭き等)をしてもらっている。季節感の味わえる作品作りや行事を企画して楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、出来るだけ希望に添えるように(買い物、外食、足湯、教会、神社等)出掛けて頂くようにしている。家族の協力を得て、美容院(髪染め)や外食、自宅への一時帰宅なども行って頂いている。また、歩行困難な方も車椅子、車等利用し外出していただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品購入のお金は、家族または本人から預かり、事業所で管理している。本人の希望があれば、家族の了解を得て所持してもらい、外出時に使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたい時には事務所の電話を使用し、直接話をしてもらっている。手紙やはがきが届いた場合には、本人に手渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、利用者と一緒に貼り絵を作ったり、行事の写真を貼って掲示している。共用部分にソファを置き、温度調整、通路に危険物がないように配慮している。浴室、トイレ等は毎日掃除をし、汚れればすぐに掃除をし、臭いについても消臭剤を使用し気にかけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、ユニット内にソファを置き、一人でくつろいだり、利用者同士会話が出来る空間作りをしている。また、ラウンジや苑庭にもベンチや椅子があり、自由に散歩に出掛け、疲れたらすぐに休憩したり、スタッフや利用者同士の憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、仏壇、小物等思い出の品を持ち込まれ、居心地のいい環境で過ごせるようにしている。扉が同じなため、一人ひとりのれんを変え、分かりやすくしている。生活習慣も大事だが本人の状態を見て、生活しやすいようベッドへの移行や環境作り(家具の位置など)も家族と相談の上行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて、今出来ることが継続できるように、ベッドの高さ、位置、立位バーの設置、トイレの使用場所などの環境整備を行っている。利用者の状態に変化があった時には、都度話し合いをし、検討し支援している。		